

22年ぶり 春季リーグ17年度目



背景写真は優勝した瞬間の卓球部男子。切り込み写真は上から道廣、青山、谷本、前出、小野、石山<カヌラ>国広直秀>

春季リーグ戦1部対戦表

明大	専大	日大	早大	駒大	法大	国学大
4 — 3	4 — 1	2 — 4	4 — 1	4 — 0	4 — 1	4 — 0
○	○	●	○	○	○	○

小野・前出 最優秀ペアー賞受賞!!

小野・前出ペアは春季リーグ戦で6勝1敗の成績を収め、最優秀ペアー賞を受賞した。今季から試合の命運を握る「1番」となったダブルスにおいて、事前の2人での十分な練習量が実を結び、互いを信頼しつづけることで勝利を重ねた。激戦の明大戦で、選手層の厚い相手に対し、成。前出が「感激深い」と語り、小野も「賞を勝ち取ったことに満足している」と語り、2人は早くも次戦を見据えている。インカレ連覇、秋季リーグ戦制覇に向けて、さらに気を引き締めている。



息の合ったダブルス

今年度から全7戦のうち、これまでの4番から5番に変更となり、チームの流れにも大きく影響することとなったダブルス。主将の青山貴洋(文4)が「この2人なら大丈夫」と絶対的な信頼を置く小野泰和(文2)・前出陸杜商(文4)ペアは、息の合ったコンビネーションで各校のエース格ペアを相手に次々と勝利を収めていく。そして最終的に6勝1敗でチームに貢献し、シングルスへ勢いをつける役割を十分に果たした。

個光ったシングルス

シングルス特に目覚ましい活躍を見せたのは道廣晴貴(文4)と前出。道廣は出場した4戦を全勝でプレーし、ダブルスでの流れを加速させる圧倒的な活躍で無傷の4勝を挙げる。一方の前出は全試合でダブルスとシングルス両方に出場。6勝1敗大活躍の活躍を見せ、初となる殊勲賞を受賞した。また谷本拓海(文1)も他の1年生の胸を借りるつもりで、全力で頑張ろうと思いついて、1年生ながら試合に出場。3勝4敗負け越しはするも、将来のチームを担う大物ルーキーとしてその片りんを見せた。

天下分け目の明大戦

早大戦、専大戦と戦い連勝を続けてきた3戦の相手は強豪・明大。ダブルスでは昨年の全日本王者、木方・飯村ペアをストレートで下し、続く道廣、小野も危なげなく勝利。連日の好調ぶりにチームの雰囲気も最高潮となるが、4番の早大戦が相手の戦意を上げ、続く5番の谷本、6番の青山も連敗。ゲームは振り出しに戻り、勝負は最終戦の石山浩貴(文2)に委ねられた。序盤は互いが1セットずつを取り合い、続く第3セットからは石山の強烈なバックハンドの猛攻を冷静に返され、長いラリーが続く苦しい場面が多くなる。しかし、要所を決め切り、2セット連取で見事勝利した瞬間に石山は天を仰いで両手でガッツポーズ。中大の勝利を自ら手繰り寄せた石山の頬には涙が見えた。

全員卓球でかなえた

青山が「全員で勝利することができた」と語るように、ダブルスから生まれる順風を全員でつなぐ、22年という長い年の思いをかなえた。彼らが、今後のような景色を見せてくれるのか、楽しみで仕方がない。(国広直秀)

大会結果 ①専大②筑波大③中大

一步及ばず…悔しい3位



中大女子卓球部は春季リーグ戦で3位入賞を果たした。選手たちは口をそろえて「悔しさ」と「手応え」の両方を語る。武山華子(文4)は「優勝できなかった悔しさ、チーム力、実力の不足を痛感した」と振り返りつつ「試合内容は手応えも感じた」と前向きに語った。

一方で西脇姫花(文4)は、初めての団体戦を「とても楽しく試合ができた」と表現し、サポートメンバーの支えに深い感謝を示した。附田美瑠姫(商2)も「チーム全員で目標に向かって戦えた」と団結力を強調し、個人としては接戦での勝負強さを今後の課題に挙げた。エースの吉松寿莉(文4)はけがを抱えながらもチームをまとめ「明るい雰囲気、3位に入賞できた」と語る。

苦しい展開でも全員が支え合い、声を掛け合いながら戦い抜いた姿は、中大のチーム力を強く印象づけた。秋季リーグ戦、インカレへ向け、チームはすでに次の一步を踏み出している。

3位を決めた瞬間の西脇(手前)と喜ぶベンチ

レイアウト 国広直秀

中大スポーツ

CHUDAI SPORTS

7月11日 土曜日

令和8年(2026)

第195号

中京大学体育会卓球部
 発行人 松岡 明希
 編集人 菊池 由佳梨
 八王子市東中野742-1
 電話 042-6747282

らーめん にんにくや

Instagram: ninnikuyaseki

X: ninnikuyaseki

応援してるぞ~!!

May CHUSPO be with YOU

中大スポーツととも

瞬間を逃さない中スポ。

輝け! 白門アスリート!!

行動する知性。 中央大学